

# 駿駒 府越 城の舟へ。



昭和29年ころの三保の風景。  
浜辺に木造船の姿が見える

はじめて

かつて駒越の浜では地引網によるシラス漁が盛んに行われていました。  
駒越の漁師たちは重い網を積んだ木造船の船を浜から沖に押し出し、四本の櫓を漕いでシラスの群れを追ったと伝えられています。  
時代は移り、当時に活躍していた木造船は三保半島の浜辺から姿を消してしまいました。ただ一艘だけ、駒越の浜に残っている船があります。その船の名は仲持合丸。  
地元漁協の組合長であった滝戸輝男さんたちが昭和三十年代に建造した船です。  
私たちは、現代に残された貴重なこの船を再生させ、駒越の歴史を後世に語り継ぎたいと願っています。  
新たに名付けて「駒越丸」。  
地域住民の力でこの船を駿府城で活躍させようというプロジェクトが動き始めました。

静岡市清水区

## 駒越地区連合自治会

駒越東町 駒越西町 駒越南町 駒越北町

駒越中1丁目 駒越中2丁目 殿沢1丁目

殿沢2丁目 増 蛇塚 港南町 迎山町



みなさまと共に明日を創る  
鈴与グループ

私たちは200年を超える歴史と約140社のグループ会社で、  
物流・エネルギー・建設・食品・情報・航空・レジャーなど幅広い分野に挑戦を続けています。



鈴与株式会社

www.suzuyo.co.jp

各種産業機械・搬送機械・省力化装置設計製作施行

テクノスマルショウ株式会社

代表取締役 竹下 智英

本社 〒424-0914 静岡市清水区港南町15番1号  
TEL(054)334-6887 FAX(054)335-5878

尾羽工場 〒424-0103 静岡市清水区尾羽120-1  
TEL(054)659-3962 FAX(054)659-3965  
E-mail:technos-ms@star.tnc.ne.jp

顧客の信頼にこたえる物流サービス

AOKI TRANS CORPORATION

アオキトランス株式会社

代表取締役会長 望月 薫 / 代表取締役社長 遠藤 修

本社 〒424-8760 静岡市清水区入船町14番12号  
電話 054-353-2111 (大代表) FAX054-353-6630

http://www.aoki-trans.co.jp



いいですね!

駒越丸の実行委員会で市長室を訪問。  
市長もこの取り組みをととても楽しみにされています!



船底の防水加工。堀川防水さんが協力してくれました。



緊張する...



いいら!

マスコミからの取材を受ける  
滝戸輝男さん。

# 駒越丸進水式

## 平成30年9月8日(土)

### 11時30分より

補修が完了した駒越丸が駿府城に向けて出発します  
どなた様も、ぜひご来場ください!!

場所: 清水区駒越南町17



いあいんし

駒越丸保全活用実行委員会  
実行委員長 竹下昌宏  
(駒越地区連合自治会長)

駒越地区の各位には、日頃より格別の御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。  
私は、駒越の子どもたちに郷土の歴史を語り継ぎ、地域への愛情を深めてほしいと願って活動をしてまいりました。  
そこに、このほど地元の堀努市議より、駒越の貴重な歴史を伝える木造船を保全活用していく事業に協力してほしいとの熱心な御相談をいただき、実行委員長の役目をお引き受けさせていただく運びとなりました。  
この船を自分たちで補修し、駿府城の中堀に浮かべたいという発案を耳にしたときは正直、驚きでしたが、若手の実行委員の皆さんの行動力を信じ、地元を代表して尽力していきたいと考えております。  
今回のプロジェクトにあたり、温かい御理解と御協力をいただいた各位に、この場を借りて、改めて御礼申し上げます。



御礼

「仲持合丸」所有者  
元清水漁協組合長  
滝戸輝男

地域の皆様にはたいへんお世話になっております。改めて御礼申し上げます。  
このたび皆様のお世話になる船は、昭和三十年頃に地元の船大工の野々村清太郎さんをお願いして建造したものです。  
私自身、若い頃から何度もこの船の艦を漕いで漁に出たものでした。  
しかしこの船を使った地引網漁も昭和四十年頃からは軽量のFRP船に代わり、その後、この木造船は船小屋に仕舞われたままになっておりました。  
このたび道路整備のために船小屋を撤去するにあたり、この船の処分を考えあぐねていたところでしたが、皆様から思わぬ御提案をいただき、非常にありがたく思っているところでございます。  
とても丈夫にできた駒越の船です。  
この船の新たな船出を心から願いつつ、御協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。



ITECは鉄鋼流通の枠を超えて  
更なる進化にチャレンジします  
未来へ向けてあなたとともに



株式会社 アイテック

静岡市清水区三保 387-7

TEL: 054 (337) 2000

FAX: 054 (337) 2005

<http://www.itec-c.co.jp>



# 駒越丸の補修の取り組み!

多くの方の御協力で着々と進んでいます



よいしょー!!



がんばろう!



ファイトー!

いっばーつ!

まずは船底の補修のため船体を裏返しました。地域の皆さんによる温かい御協力に感謝! このあと船底の木材を補修していきます。



なるほど!



どれどれ...

もちろん堀議員も連日の作業に参加!! とても頑張っています。葵区の丹沢議員もときどきお手伝い。



ありがとう!

この船を作った野々村清太郎さんの息子さんも応援に駆け付けてくださいました!



ピース!

久能山の御神木の板に鈴木久義さんが船名を描いてくださいました



駒越丸保全活用実行委員会  
事務局代表 堀 努  
(静岡市議会議員)

いあいっしょ!

このたびの「駒越丸保全活用プロジェクト」は、多くの皆様に支えられてここまでたどりつきました。振り返れば、当初は保存場所や引き取り手が見つからず、私一人のチカラではどうすることも出来ませんでした。

そんな折、丹沢議員をはじめ「中堀めぐり舟実行委員会」から地域を越えて協力を取り付け、現在では実行委員会の強力なアドバイスの元、活用方法・舟の修復・行政との調整・市長への事業報告等、力強く前へ進むことが出来ております。

駒越丸には、郷土の文化を遺し伝えるだけではなく、清水の過去と未来とを繋げる役割を担ってほしいとの願いを込めています。

市民と海との距離が離れて久しい中、これからの清水は、海の可能性を信じて海と共に歩んでいくことが重要であります。

そして、誰もが豊かな海の恵みを受用できる、そんな清水を皆様と創りあげていきたいと考えております。

「駒越丸」の新たな船出に、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

## 駒越丸保全活用プロジェクトとは



駒越の木造船を駿府城のお堀で活用しようという今回のプロジェクトは、いくつかの縁に恵まれて動き出しました。

約六十年前に建造されたこの船の本来の名は「仲持合丸」。かつて駒越地区で行われていたシラスの地引網漁で活躍していた船です。

この船は滝戸輝男さんの船小屋に大切に格納されていましたが、駒越海岸を通る新しい道路「羽衣海岸線」の整備のために、滝戸さんの船小屋は撤去されることになってしまいました。

雨ざらしにしておけば船は傷んでしまいます。滝戸さんは、この船をどうしたものか考えていました。

その話を聞きつけ、市議会議員の堀努さんが動き出しました。



堀議員が目にしたのは「駿府城中堀めぐり舟実行委員会」の活動。このグループは、約百年前に安倍川で使用されていた船を再生させ、駿府城の中堀で活用してきた実績があります。

「安倍川の船と清水の船が、駿府城の中堀に並んで浮かぶ姿を市民に見てほしい」

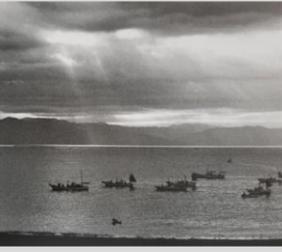
そう考えた堀議員は駿府城での船の事業をリードしてきた丹沢卓久市議(葵区)に協力を求めました。

丹沢議員は堀議員の熱い訴えを快諾。そして駿府城の実行委員会の皆さんの力強い協力を取り付けることができました。

静岡新聞、朝日新聞、中日新聞の各紙に活動の記事が掲載!



静岡新聞 4月26日 朝刊



昭和30年頃の駒越海岸の風景

そこで新たに、仲持合丸を駿府城で活用するための市民実行委員会が立ち上がりました。

その目的は、

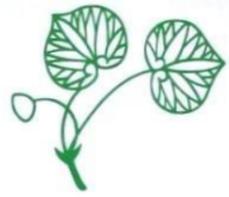
- (1) 駒越の木造船と漁業の歴史文化を後世に伝える
- (2) 船を再生して現代の観光交流のために活用する
- (3) 清水と駿府の一体感を醸成する

そしてこの機に、船の名を「駒越丸」と改め、私たちの駒越の名を駿府城下に響かせたいと願っています。

実現まであと少し。

なお、このプロジェクトは、市の補助金などをあてにすることなく、市民主体でやり遂げようとするものです。

皆様の温かい御協力に深く感謝申し上げます



コラム

## 清水湊と駿府城

### 清水湊と巴川水運

大御所として駿府に入城した家康公は、清水湊を非常に重要視してしま

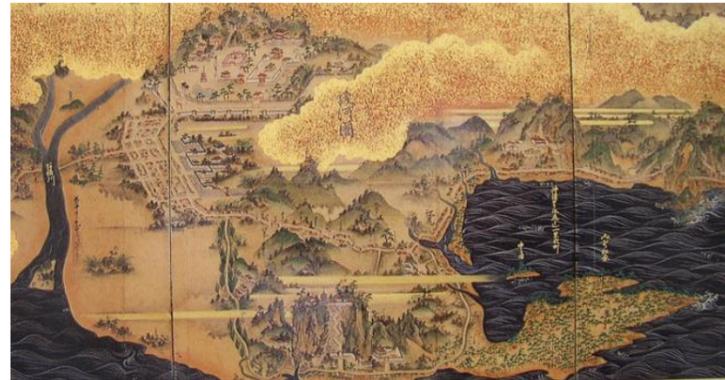
た。現在、駿府城では天守台の発掘調査が進められていますが、その石材の多くは伊豆から清水湊に運ばれ、さらに巴川をさかのぼって駿府に運ばれたと伝えられています。

その運搬の途中で落下したとされる石材がいまも各地に残されており、入江一丁目の巴川製紙の門柱もそのひとつです。

### 華麗な清水御殿

家康公が大御所として駿府に在城していたころ、現在の清水区岡町に「清水御殿」と呼ばれる見事な御殿が造営されました。

御殿の建物には立派な彫刻が施され、広大な敷地には大きな池が設けられていたと伝えられています。家康公はこの御殿で白拍子の踊りを見たり、船遊びを楽しんだりしたそうです。



### 貝島御殿と御座船

三保の内海（貝島）にも家康公のための御殿が建てられていました。

「貝島御殿」と呼ばれたこの御殿には、富士山を眺めるために高層の「富士見櫓」が設けられていたそうです。

また、清水湊では豪華絢爛な御座船「長永丸」などが建造され、家康公は貝島御殿や清見寺などへ三保湾の遊覧を楽しんだと伝えられています。

清水湊に浮かぶ御座船の威容は当時の朝鮮通信使の記録にも残されています。



参考：江戸時代中期の御座船の模型（船の科学館所蔵）

## 清水漁業協同組合

静岡市清水区島崎町 149 番地の40  
TEL(054)352-5044 FAX(054)352-5412

[用宗支所]  
静岡市駿河区用宗二丁目 18 番 1 号  
TEL(054)259-2111 FAX(054)257-8300

清水の「最高級品」をお届けします！  
JAしみずが取り扱う「旬の農産物」の中から「最高級品」を取り揃え、清水の特産品とわがまち清水の魅力を発信します！

アンテナショップ  
**きらり**  
JAしみず

〒424-0114  
静岡市清水区庵原町 3313-1  
営 / 9:00 ~ 17:00  
休 / 毎週火曜日(祝日を除く)

楽天市場店

0120-322-064

## 駿府城の葵船 中堀めぐり舟実行委員会の取り組み



### 市民発案の事業

「駿府城の中堀に舟を巡らせることはできないか」という構想が市民有志から立ち上がったのは、平成28年の夏のことでした。

まずは駿府城の風情に似合う木造の舟を探すところから実行委員会の活動がスタートしました。そして見つけたのは百年前の安倍川の舟。

「駿福丸」と名付けられたこの舟は、寄付によって補修され、駿府城に搬入されました。



葵区福田ヶ谷の水防団倉庫に格納されていた「駿福丸」。大正6年に賤機郡役所が発行した鑑札があり、およそ百年の歴史を誇る安倍川の舟です。平成28年に駿府城中堀に運び込まれ「葵舟」の社会実験や「水辺の彩づくり活動」などに活用されています。

そして手さぐりでの試験乗船をいくつか、実行委員会は平成28年12月に田辺市長に駿府城中堀をめぐる舟の事業構想を提案しました。



昨年の社会実験。田辺市長もご機嫌で試乗されました。テレビ静岡のニュースより。

田辺市長は実行委員会からの市民提案を受け入れ、翌平成29年度から静岡市の事業として「葵舟」の社会実験が始まりました。

そしてこの秋には大道芸の時期に合わせた最終的な社会実験が行われ、好評を得たところです。

この成果を踏まえ、目下、静岡市では平成31年度からの定期運行の開始を目指して準備を進めています。



さらに、実行委員会では行政と連携して、舟を使った市民主体のイベントやお堀の水辺に草花を増やす活動などを実施していく計画です。

「駒越丸」には、清水の海の文化を駿府の歴史の中に注ぎ込むという大切な役割があります。

ぜひ、皆さんも駿府城に「駒越丸」が浮かぶ日を楽しみにしてみてください。

